

6. 潮溜り・干潟護岸とカニ護岸による都市汽水域の生き物の棲み処づくり

— 東京都港区・芝浦運河の試み —

鹿島建設㈱環境本部

小池勝則

1. 事業のねらい

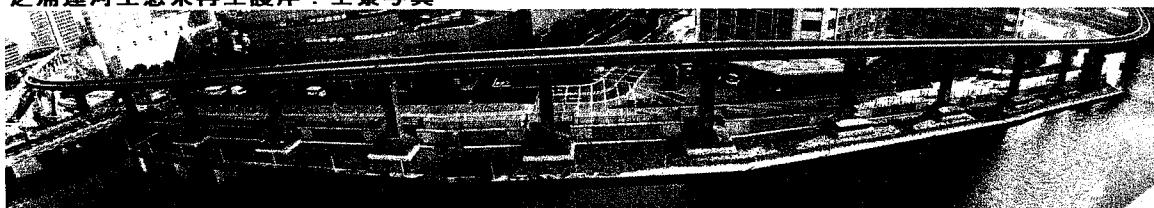
東京湾岸 3 自治体（東京都、神奈川県、千葉県）では 2003 年 3 月に「東京湾再生のための行動計画」を定め、快適に水遊びができ、多くの生物が生息する親しみやすい海の復元を目指している。本事業は東京湾再生のシンボルとして汽水域の生物の棲み処づくりを順応的管理手法に基づいて実施したものである。

2. 事業の特徴

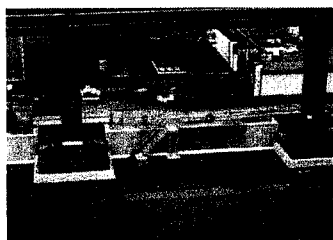
本事業では、江戸前ハゼ、ウナギを再生目標生物として、両種が生息できる場所の創出を目的に都市運河・水路に適したテラス型護岸を選定した。この護岸テラス上に潮溜りや碎石干潟を設置して棲み処を提供すると共に、付着する藻類による酸素やエサの供給機能によりマハゼやウナギの生息に適した環境を創出している。さらに護岸後方の擁壁にはカニ類が生活できるコンクリート製カニ護岸パネルを設置することで生物の多様性や、魚類への給餌機能を高めている。また都市域の運河ということもあり、地域のシンボルとしてイベントや学校教育にも活用されている。

- ・ カニ護岸の整備に際しては周辺住民・児童が運河沿いの旧護岸からカニを採取・飼育後、新に整備されたカニ護岸に放す「カニ引越し大作戦」を実施。
- ・ 事業評価を目的とした生物調査では地元小学校の総合教育の一環として小学生による採取調査を実施

芝浦運河生態系再生護岸：全景写真



満潮時



カニ引越し大作戦



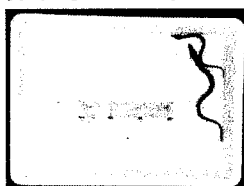
小学生の生物調査



干潮時



採取された生物



ウナギ



マハゼ



テナガエビ